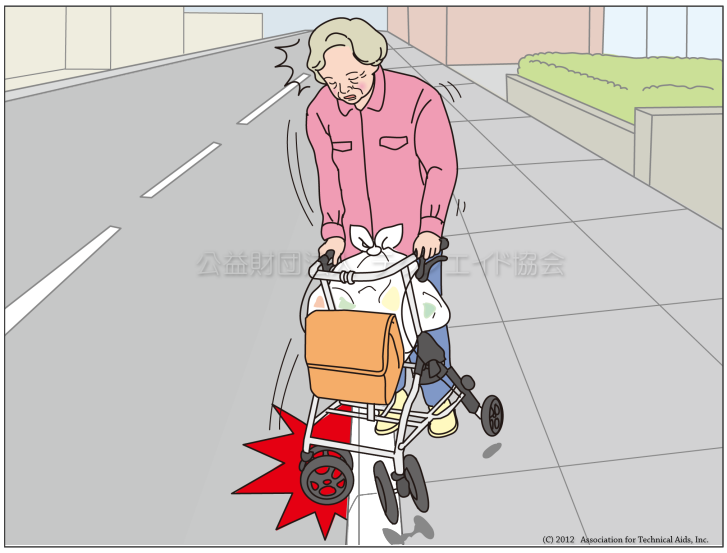
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：234

歩道と道路の段差にキャスタがひっかかり、転倒しそうになる

場面の説明

前をよく見ていなかったため、車道と歩道の段差にキャスタをとられてしまい、転倒しそうになった



利用シーン	移動 外出
主な利用場所	段差・縁石
介護保険の種目	歩行器
分類コード (CCTA95)	120606 (歩行車)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

歩行車にゴミをのせ集積所まで移動しようとしていた場面での出来事です。歩道を歩いていましたが、車道に向かって傾斜している箇所でハンドルをとられ段差に引っかかってしまったそうです。段差による転倒のみならず、車両との接触など危険な状況につながることなので、行動する範囲にこのような場所があるかどうか、ある程度の傾斜があってもまっすぐに進行できる身体能力を有しているかどうかを確認する必要があります。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：前方をよく見ないで歩いていた
人：歩道にはわずかな傾斜があることを意識していない
人：まっすぐ歩いているつもりだったが、ハンドルがとられてしまった
環境：歩道にはわずかな傾斜がついている

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.